

平成7年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)

関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成7年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成8年9月2日、植調会館3階において開催された。

本年度供試された冬作関係除草剤は、適用性試験17剤、生育調節剤は、適用性試験1剤であ

った。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行っ

た。

その結果は、次表のとおりである。

平成7年度 冬作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除 草 剤

I 小 麦

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
1. BGX-816 水溶 ・ピアラホス ……………8% ・グリホサート ……………16% 〔インパルス普及会(事;明治製菓)〕	実・継 (前回通り)	一年生雑草全般	茎 葉	耕起前7 ～14日	50～60 g	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地 (畑作・水田裏作)	1) 周辺作物への飛散に注意する。	・多年生雑草に対する効果について。
2. DPX-16① 細粒 ・チフェンスルフロメチル ………0.15% 〔丸和バイオケミカル〕	実・継	一年生広葉雑草およびスズメノテッポウ(但し、スズメノカタビラは除く)	土 壌	<u>播 種 後</u> 小麦1～3葉期、雑草発生前～発生始期	400～500 g 400～600 g	全 土 壌 (砂土を除く)	寒冷地南部、温暖地、暖地 (畑作・水田裏作)	1) 砕土、整地、覆土をていねいに行なって均一に散布する。 2) ヤエムグラに効果の劣る場合がある。播種後処理の場合はヤエムグラに有効な剤との体系処理を行う。	・地域拡大。 ・播種後処理での効果の確認。 ・低薬量での効果の検討。

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
3. HSW-922 乳 (EW) ・チフェンスル フロメチル ……………2% ・IPC ……30% 〔北海三共〕	実・継	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	20m/ (散布水 量10l)	全 土 壌 (砂土を 除く)	寒 地		・越年生雑草に 対する効果の 確認。
		一年生広 葉雑草		茎葉兼 土壌	幼穂形成 期, 春雑 草発生始 期				
4. KUH-901 細粒 ・ペンディメタ リン……8% ・リニュロン ……………1.2% ・ペンディメタ リン…0.8% 〔クミアイ化学 工業〕	実	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	400 ~ 500 g	全 土 壌 (砂土を 除く)	全 域 (畑作, 水田裏作)	1) 砕土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する。 2) ヤエムグラには 有効な剤との体 系処理を行う。	
5. NC-362 水和 ・ジフルフェニ カン……4% ・IPC ……30% 〔日産化学工業〕	継								・効果, 薬害の 再検討。
6. NH-9301 フロアブル ・ET-751 ……………2.0% 〔日本農薬〕	実・継	一年生広 葉雑草	茎 葉	広葉雑草 2 ~ 4 葉 期	5~10m/ (散布水 量10l)	全 土 壌 (砂土を 除く)	全 域 (畑作, 水田裏作)	1) 体系処理; イネ 科雑草に有効な 既登録土壌処理 剤との組合せで 使用する。 2) 極端な低温条件 では10m/l を使 用する。 3) 寒地では小麦の 2 ~ 4 葉期で使 用する。	・効果の確認。 ・越年生での効 果の検討。

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準						継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
7. WOC-01 液 ・グリホサート イソプロピル アミン塩 ………41% 〔 ホワイトオー バーシーズ 〕	継							
8. YF-65L 液 ・ジクワットジ プロミド ………7% ・パラコートジ クロリド ………5% 〔 ゼネカ 〕	実・継	一年生雑 草全般	茎 葉	耕起前 播種後～ 出芽前 (残存雑 草対象)	60 ～ 100 ml	全 土 壌	寒 冷 地 暖 地 温暖地以 西	1) 周辺作物への飛 散に注意する。 ・地域拡大。 ・播種後処理で の効果の確認。

Ⅱ 大 麦 類

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準						継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1. DPX-16 ㊤ 細粒 ・チフェンスル フロンメチル ………0.15% 〔 丸和バイオケ ミカル 〕	実・継	一年生広 葉雑草及 びスズメ ノテッポ ウ	土 壌	播 種 後 麦1～3 葉期雑草 発生前～ 発生始期	400 ～ 500 g 400 ～ 600 g	全 土 壌 (砂土を 除く)	寒冷地南 部、以西 (畑作、 水田裏作)	1) 碎土、整地、覆 土をていねい に行って均一に散 布する。 2) ヤエムグラに効 果の劣る場合が ある。播種後処 理の場合はヤエ ムグラに有効な 剤との体系処理 を行う。 ・地域拡大。 ・播種後処理で の効果の確認。 ・低薬量での効 果の検討。

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
2. NH-9301 フロアブル ・ET-7512% 〔日本農薬〕	実・継	一年生広 葉雑草	茎 葉	広葉雑草 2～4葉 期	5～10m/ (散布水 量10l)	全 土 壌 (砂土を 除く)	寒冷地以 西(畑作, 水田裏作)	1) 体系処理; イネ 科雑草に有効な 既登録土壌処理 剤との組合せで 使用する. 2) <u>極端な低温条件 では10m/ を使 用する.</u>	・地域拡大. ・効果の確認.

Ⅲ い ぐ さ

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. CG-113- 1kg 粒 ・プレチラク ール.....4% 〔日本チバガイ ギー〕	実・継	一年生冬 雑草 <u>一年生夏 雑草</u>	土 壌 (湛水)	活着後, 雑草発生 前 <u>雑草発生 前～始期</u>	100 g	埴壌土～ 壤土	暖 地	1) <u>他剤との組合せ で使用する.</u>	・地域拡大.
2. KPP-314 フロアブル ・ベントキサ ゾン.....2.9% 〔科研製薬, 三 井東圧農薬〕	継								・効果, 薬害の 再検討.
3. SL-498- 1kg 粒 ・ピラゾキシ フェン.....18% ・プレチラク ール...4.5% ・シメトリン1.5% 〔SL-49研 究会(事; 石 原産業)〕	実・継 (前年通 り)	一年生雑 草全般	土 壌 (湛水)	雑草発生 始期～ノ ビエ1.5 葉期(4 月上～中 旬)	100 g	埴壌土～ 壤土	暖 地	1) 冬雑草対象除草 剤との組合せで 使用する. 2) 5月以降に夏雑 草が多発する場 合は体系処理を 行う.	・処理時期の拡 大.

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準						継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	
4. SL-970 フロアブル ・ピラゾキシフ ェン……15% ・プロモブチド ………10% ・テニルクロール ………2% 〔石原産業〕	継							・効果、薬剤の 再検討。

IV 水 稻 刈 跡

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準						継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	
1. NHS-50 粒 ・塩素酸ナトリ ウム……50% 〔エス・ディー ・エスパイオ テック〕	実・継 (前年通り)	一年生雑 草全般	土 壌	水稻刈取 後10～20 日	2,000～ 2,500 g	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地	1) 均一に散布する。 ・地域拡大。
		マツバイ		水稻刈取 後10日以 内			寒冷地南 部、温暖 地	
2. WOC-01 液 ・グリホサート イソプロピル アミン塩 ………41% 〔ホワイトオー バーシーズ〕	実・継	一年生雑 草全般	茎 葉	水稻刈取 後雑草生 育期	25 ～ 50 ml/ (散布水 量10 l)	全 土 壌	温暖地以 西	・多年生雑草に 対する効果に ついて。 ・地域拡大。

B. 生 育 調 節 剤

I 小 麦

薬 剤 名	中央判定	使 用 基 準						継続の内容
		目 的	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	
1. CG-186 乳 ・トリネキサパ ックエチル ………23% 〔日本チバガイ ギー〕	継 ?							・効果が不安定 で収量に対す る影響が大き い。